

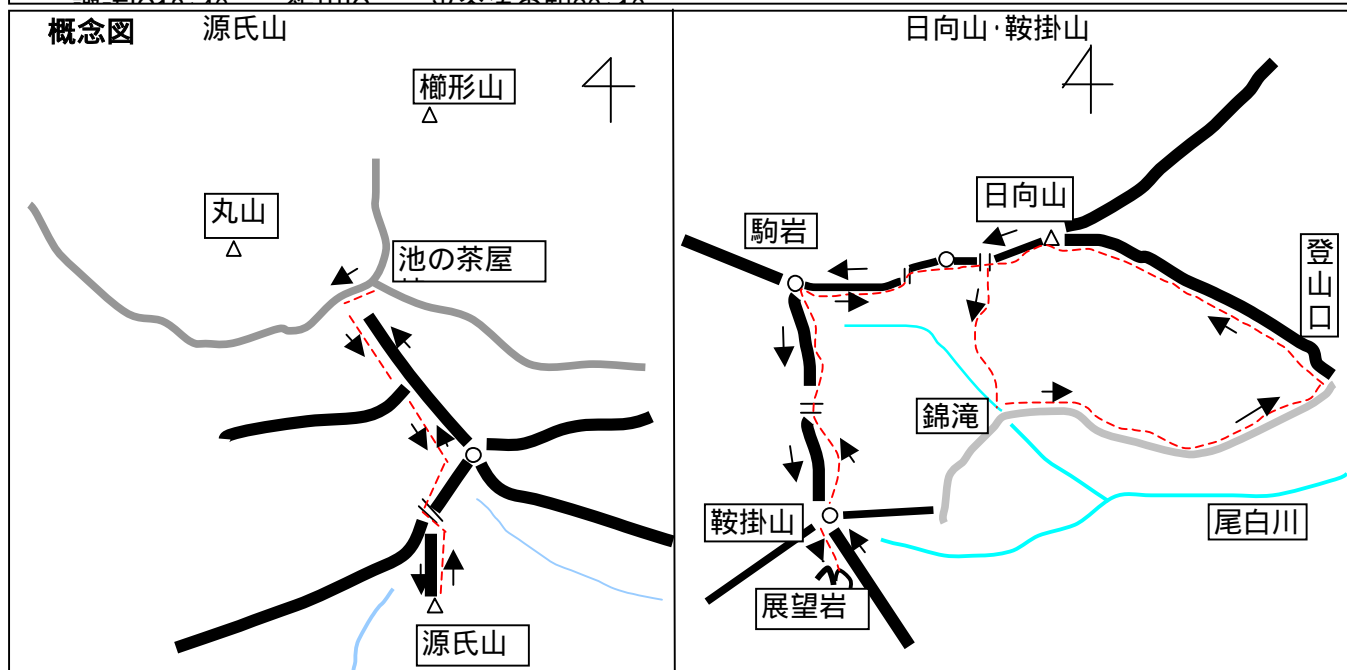
山行報告書

報告書作成

2006年6月19日

山名 [山域]	源氏山・日向山～鞍掛山	目的と方法	展望と花を楽しむ
登山期間	2006/06/03～04	山行形態	1泊2日(登山口テント)
参加人数	4人		

行動記録 6/3岩津市民ホームP5:50発==平谷道の駅7:07==飯田IC==諏訪SA9:05==双葉JC=南アルプスIC9:50==池の茶屋林道P10:55着11:10発----源氏山登山口11:25-----源氏山 13:50~14:30--大峠・源氏山分岐15:00---源氏山登山口16:00----P16:10着==葦崎旭温泉17:20~18:00=(食事)=
日向山登山口TS20:10着 6/4TS5:35発----日向山 7:10---雁が原山7:20~7:40---滝コース分岐7:50--
-駒岩 9:50----(鞍部)----鞍掛山 10:40---展望岩10:45~11:30---駒岩 12:10---滝コース分岐13:40-錦滝14:30~15:00---(林道)---日向山登山口15:40着16:00発===道の駅「信州蔦木宿」 17:10~18:10



日誌 集合場所の岩津市民ホームには2種類の燕が巣を掛けている。普通のツバメとコシアカツバメだ。巣の形が全く違うので直ぐに判る。今日はETCを使い伊北ICで一度降り、直ぐに乗り直す。初めての南アルプスICで出て「櫛形山」方面に向かい池の茶屋林道Pに駐車。時間は遅いが、余り人に知られていない山なのか、先客は2台。それも違う山に向ったようだ。林道が出来つつあり、それに虐げられたような登山道を、また、廃道となりつつある方の道を行く。Yさんは「ここはツバメオモトの山」と盛んに仰る。なるほど、だんだん出てくる、出てくる。初お目見えの???蘭も。なにしろマイナーな山のように、読図に手間取り、思ったよりも登頂には時間が掛かったが、帰りにはちゃんと取り戻し、計画書どおりに下山。葦崎旭 に浸かり、途中食事を済ませて日向山登山口P着20:10。我々のみ。
6/4珍しい鳥の声と共に起きる。花だけでなく、鳥のことももう少し解ったら、もっと楽しいのといつも思うのだが、日向山はしっかり整備された山で、雁が原山までは、ハイキング気分で歩ける。また、展望もすばる良い。しかし、ここを過ぎると、しっかり急登となり、約2時間で駒岩。そこから急下り、急登を約1時間で鞍掛山。もう少し行くと突然視界が開け「甲斐駒ガ岳」が眼前にドーンと聳える展望岩に着く。深い谷、長い尾根、途中駒岩で見た真新しい熊剥ぎの痕に、ここが熊の住む山域であることを納得する。帰路もまた、急下降、急登、急下降と足の休まる暇がない。登りは、ゼーゼー、ハーハーと余裕が無かったけれど、下りになったら、実に多くの目印用テープが目につく。登山道がはっきりしているのに、同じ木に5、6本も着けてあったり、タオルを引きちぎって結んであったり、これでもか、これでもかと20mもしないうちに出てくる目印に、とうとう清掃登山のようになってきた。冬に入るためにつけたのならば、もう回収されていなくてはいけない。ビニールテープは木の成長を妨げるので、これもいけない。要所、要所に最新の目印を残し、剥げた物、木に食い込んだテープなど回収したら、レジ袋2杯にもなってしまった。これが良いことなのか、悪いことなのか、皆様のご意見も伺いたい。ただ、あまりの目印の多さは、我々4人には耐えがたかったし、理解できなかった。急下降も終わって着いた「錦滝」は水量も多く、なかなか見応えがあるし、その岩肌に見つけたコザクラも可愛かった。滝の下に傘を差して入り込み、写真を取りまくること30分。名残は惜しいけれど、時間切れ、帰路に着く。ここからは林道を40分ほど歩いて、日向山P15:40着。どこかで時間調整ができて、またまた予定通り。立案者がすばらしいのかちゃんとプラスマイナス0になるところがいい。帰りは「道の駅信州蔦木宿」で、蕎麦。諏訪南ICから高速に乗るつもりが、間違えて諏訪ICになったのは御愛嬌。楽しい仲間と静かな山と盛りの花たちに出会えて、充実の山旅でした。